

そだけの「えだかるた」

ソサエティ 5.0 【Society5.0】の **そ**!

時代はスマート社会!

でも、イノシシの出没にも負けず…、米を作り続け…、碎石も何十年と続いており…、

会社勤めでは、テレワークも可能になり、登下校見守りボランティアでもお世話になり…

一方、東京からだけでなく、東西の行き来(50号)も、南北の行き来(高速道)も、便が良く、最適のロケ地にもなる 我が故郷!

※「例幣使街道」検索!(^▽^)/

まさに、小野寺は、Society1.0~5.0 までのハイブリット(^▽^)/

そして、今回の6年生の発表は、

そったく同時 5.0 【啐啄同時 5.0】の **そ**!



【そったくどうじ】

またとない好機のこと。また、学ぼうとする者と教え導く者の息が合って、相通じること。

鳥のひなが卵から出ようと鳴く声と母鳥が外から殻をつつのが同時であるという意から。

★今回のプロジェクトが、なぜこれだけ進んだか?! と言えば、まさに「そったく同時」になったから!

- ①児童=「学びたい」「知りたい」
- ②地域=「伝えたい」「教えたい」
- ③学校=「学ばせたい」=学校課題
- ④社会福祉協議会=今回のプロジェクト
- ⑤江田=母校に勤められたことへの感謝・感慨無量の毎日

①児童に、地域について学ぼうとする意欲がなかったら発展しなかった。

②地域の協力がなかったらできなかった。=地域人材の活用・協力=人材→人財→**お宝**

③学校課題の具現化(目指す子ども像の実現)のためには、地域の力が必要であり、その現状を皆様にご理解いただき、ご協力を得られた。

④社会福祉協議会により、発表の場(発信の場)ができた。

⑤地域に開かれた教育課程を展開し、地域と共にある学校をつくっていく上で、①~④のタイミングが合ったことは大変ありがたいことであり、児童にも、地域・保護者にも、社会福祉協議会にも、そして、担任をはじめとして、本校教職員に対しても感謝の意を表したい。

Society5.0の「5.0」の使い方とは、違ってしまいましたが、三位一体どころか、「5つ同時」の「そったく同時」状態になったからこそ、今回のプロジェクトが成功したと言えます。

とにもかくにも、6年生、頑張ってくれてありがとう!

<おまけ> 江田の記憶

■やっぱり、「男の子」の記憶は「おやじ」より「おふくろ」かな(;’▽’)

冬 おふくろのつくる「手打ちそば」は美味かった！

体重も40kgくらいで、非力だったから、めんにコシはなかったけど・・・

「しもつかれ」 “あの”しもつかれは、もう食えない・・・。

「すいとん」 孫らは、ばあちゃんのつくる すいとん が好物だった。



春 「タンポポ」のおひたしばかり食べさせられた。苦かった。本当に、人間の食べ物？

山菜の天ぷらはサイコー！「たらの芽・せり・ふきのとう・・・」

おやつは「草餅」・・・腹が減ったら、自分で、ピンク色の安全カミソリで、もち草(ヨモギ)を摘んできて作ってもらった。

夏？ 食卓は、「ナス」ばかり！ナスの天ぷら、ナスの味噌汁、ナスのおひたし

秋 「栗」 おふくろは、一生懸命、拾ってゆでてくれたけど、皮をむくのが面倒くさかった・・・

■おやじ

父は、長兄が田畑の相続を放棄し、東京に行っちゃったことで、「末っ子なのに、家屋敷と田畑をもらえてうれしかった。」と言っていた。でも、考え方は、常に革新的？だった。私に対しては、たとえ、「江田」を名乗らなくても、どこで暮らそうとも、血のつながった子どもが元気で生きているならそれだけでいいと言っていた。私は、それを真に受けて・・・(;^_^A

その反面、菩提寺を大切にすること、村檜神社への初詣・お参りを欠かさないことについては、何度も言われた・・・気がする。

◆その結果、私は、今、ここで、こうしています。 そのおかげで

- ・保護司や水泳ボランティアをやっている同級生と再会できました。
- ・食改さんをやっている同級生に再会できました。
- ・ばあちゃんになって、孫の送り迎えをしている同級生に再会できました。
- ・私の小野寺北保育所時代をご存じの方にも再会できました。
- ・先輩のお孫さんたちにも会えました。
- ・私の両親をご存じのたくさんの方々に会えました。両親がお世話になりました。

◆そんなわけで

- ・6年生が作った「パワーポイント」 データで欲しいな(^▽^)/
- ・3月6日の「我が事・まるごと」も、3月30日の「桜まつり」も楽しみだな～

今年は、雪が降りませんように！

と、ひとりで、校長室で感慨にふけています。

頭の中には、 **な○もり○きな** の曲が流れています♪

なんてったって、私 **○んどう○ッチ** と同じ年だから(^▽^)/

そんなことが言いたくなり、「最初で最後」と言いつつ、不動和だより(続編)を発行させていただきました。